

平成17年度第4回学術講演会（講演抄録）

最近の金融経済情勢

—— データを読み解く力 ——

How to treat Economic Data?

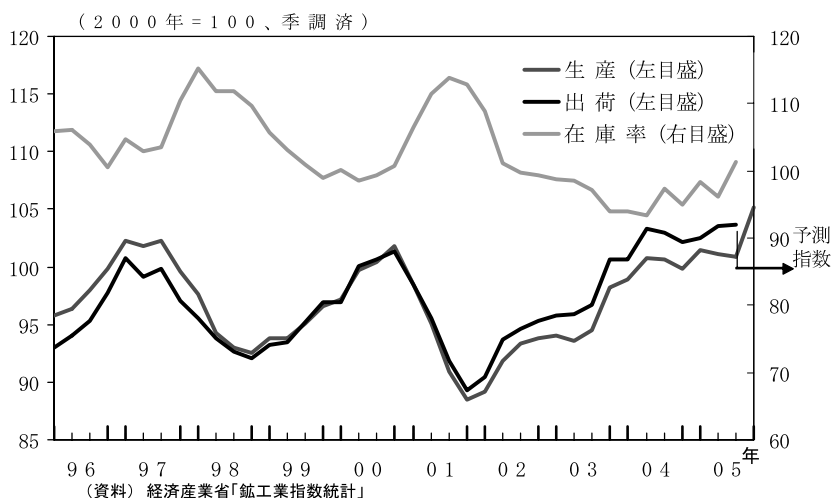
講師 福田 一 雄

（日本銀行金融機構局 参事役／講演当時 日本銀行前橋支店 支店長）

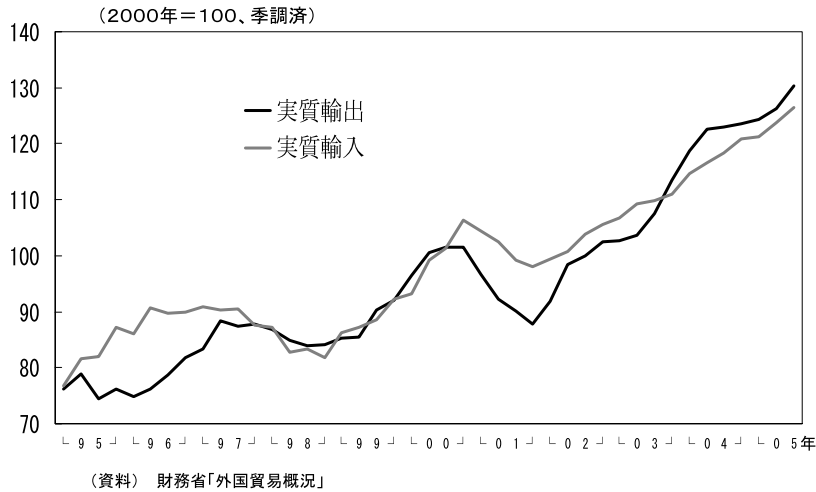
皆さんがデータを検索する際、①予め目的を持って、②データが名前の通りの経済事象を表していることを前提に、③目的に即したデータを抽出し分析対象とします。それはそれで間違ったアプローチではないのですが、データの種類と性格によっては必ずしも本当の理解に到達するとは限りません。今日は、高崎経済大学での講義という機会でもあり、最近の講演資料を用いながらデータの読み方について解説したいと思います。

昨年から新聞紙上を賑わした言葉に「景気の踊り場」という表現があります。「日本経済は踊り場にある」という現象の検証を目的とすれば、当然、踊り場のありそうな統計を探します。すると、鉱工業生産（図表1）と輸出（図表2）には、今回の回復局面できれいに2回ほど階段の踊り場にそっくりな停滞局面があることを見つけます。

図表1 鉱工業生産



図表2 輸出と輸入



図表3 輸入増加の主役は？

(前年比、%)

	02年	03年	04年	04/4Q	05/1Q	2Q	3Q
素 原 料	▲2.8	5.9	1.3	7.9	▲1.2	▲3.2	▲4.3
中 間 財	1.3	4.6	8.7	7.1	4.8	5.7	4.4
消 費 財	▲0.9	8.0	12.5	10.1	7.5	13.7	7.1
情 報 関 連	7.2	17.3	17.6	12.9	10.5	12.6	21.3
資本財・部品	8.1	14.6	19.2	17.0	8.4	15.0	14.7
合 計	1.1	6.8	8.1	8.5	4.3	6.1	6.8

(注) 「消費財」は除く食料品。
「資本財・部品」は、除く航空機。

(資料) 財務省「外国貿易概況」、日本銀行「企業物価指数」

やれやれ良かった、と安心するのは早計です。なぜなら、今の探し方では「踊り場」のない統計は全て捨象されています。確かに輸出と鉱工業生産は日本経済の大きな規定要因ですが、全てではない。検証目的が「日本経済の踊り場」である以上、それ以外の要因を確認する必要があります。因みに、輸出と鉱工業生産の担い手である製造業の国民総生産に占める割合は僅か22%に過ぎません。輸出を見たのなら、ちょっと寄り道をして輸入を見て下さい(図表2)。

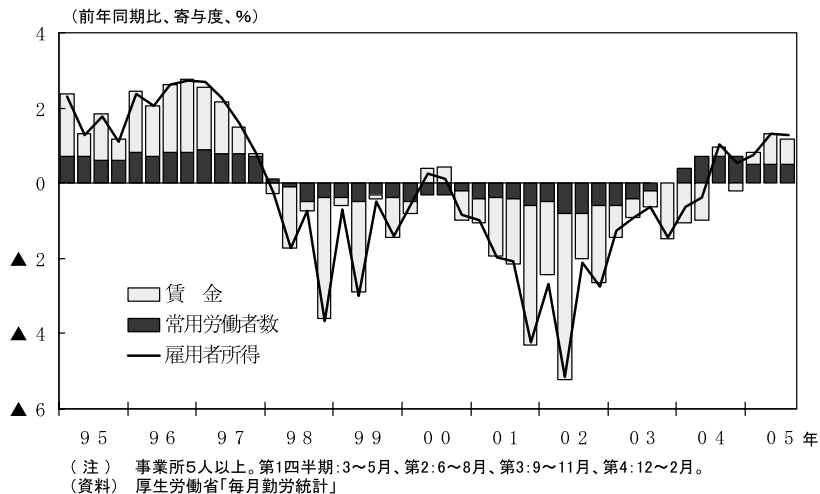
すると、輸出や鉱工業生産とは様変わりに輸入には踊り場がない。そればかりか極めて着実に増加を続けている。ということは、輸出以外の需要＝内需と、製造業以外の業種＝非製造業が着実に回復しているという仮説が出てきます。さて、それでは輸入のうち何が増えているのか内訳を確認すると(図表3)、消費財とか資本財が増えている。資本財は設備投資が活発だという調査結果と

整合的だが、個人消費の方は確か大型小売店売上高がマイナスではなかったか？

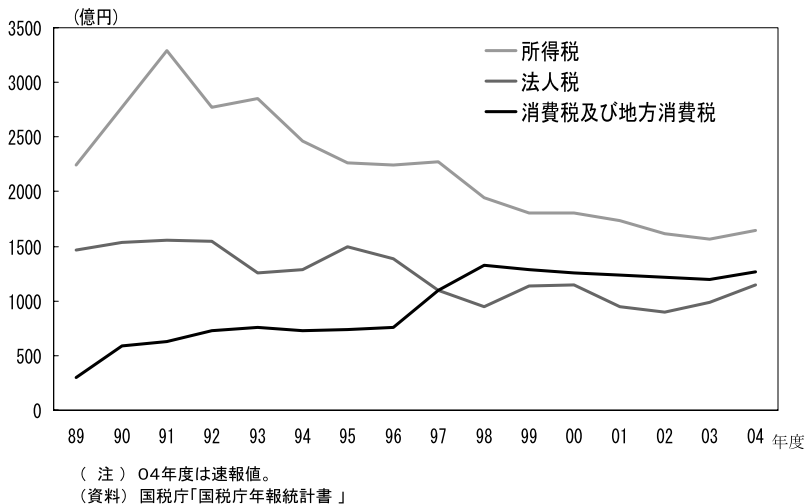
でも、ここで現実に戻って、あなた自身がどれだけ大型小売店で消費しているかを考えてみてください。実は、家電量販店やホームセンター、衣料品などの専門店は、大型であっても百貨店・スーパーを対象とした大型小売店統計には入っていない。大型小売店統計は個人消費のごく一部に過ぎないのです。一方、輸入は必ず税関を通るので、世界中から入って来る商品を網羅的に捕捉しています。さて、どちらの方が個人消費を正しく反映しているか？

そこで個人消費を左右する雇用者所得統計をみると（図表4）、雇用者数は2004年から、賃金も2005年には増え始め、雇用者所得は増加に転じています。しかし、ここでも雇用者所得統計はサン

図表4 名目で成長し始めた経済（雇用者所得）



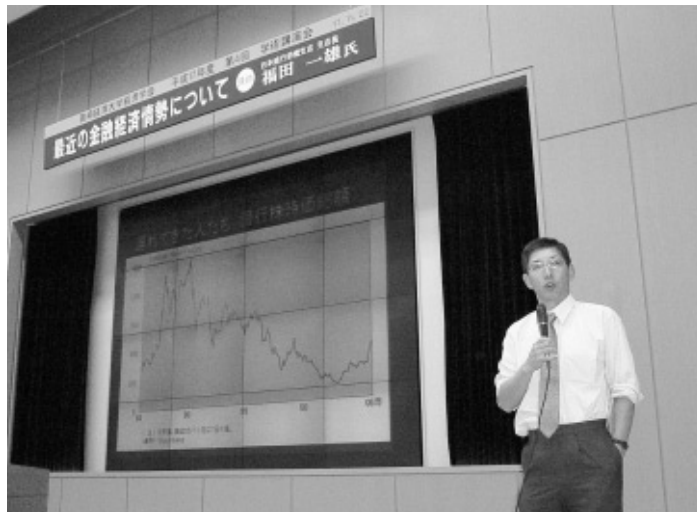
図表5 名目で成長し始めた経済（税収・群馬）



プル調査です。実は、所得に関しては、少々毛色が違いますが完璧な網羅統計があります。少し公表が遅いというデメリットはありますが、国税庁が発表している年報統計書です。これを見ると(図表5)、法人税のみならず所得税＝個人所得も2004年から増加に転じている。さらに、僅かとはいえ消費税も増えているではないか。

さて、今日はあれこれ統計を見てきましたが、このように雇用環境が変わると、実はみなさんの就職戦線にも少し変化が出てきてはいませんか？仮に日本経済が昨年から「踊り場」にあったとすれば、企業の採用姿勢にもなにがしかブレーキがかかるはずですが、実際にはどうだったのでしょうか？

平成17年11月22日 於 本学1号館111番教室



学会主要記事

1) 正会員総会

1. 平成17年4月20日(水)、本学大会議室において開催され、平成16年度決算及び事業報告、平成17年度予算及び事業計画を承認し、平成17年度理事、監事を選出した。

2) 理事会

1. 平成17年4月27日(水)、本学学会室において開催され、論集、学術講演会、研究会の責任者、研究会の日程、論集の業者を決定し、論集別冊の今年度方針について審議した。
2. 平成17年5月11日(水)、本学学会室において開催され、論集の執筆者、学術講演会講師が決定した。
3. 平成17年5月18日(水)、本学事務棟3階大会議室前ロビーにおいて開催され、学術講演会講師を決定した。
4. 平成17年7月6日(水)、本学学会室において開催され、第1回研究会の報告者、コメンテーター、論集別冊の業者が決定した、論集について審議した。
5. 平成17年10月5日(水)、本学学会室において開催され、論集（退職記念号）の執筆者、学術講演会講師の決定、レフリー規定の項目、論集執筆者欧文掲載の仕方、大学院生論文掲載について審議した。
6. 平成17年10月26日(水)、本学学会室において開催され、論集（退職記念号）の執筆者、研究会の報告者、コメンテーターが、決定された。
7. 平成17年11月9日(水)、本学学会室において開催され、論集（退職記念号）へ大学院生論文掲載について審議された。
8. 平成17年11月30日(水)、本学学会室において開催され、論集（退職記念号）へ大学院生論文掲載が決定し、執筆順について審議された。
9. 平成18年3月9日(木)、本学学会室において開催され、論集の執筆者について審議した。

3) 機関誌

1. 機関誌『高崎経済大学論集』第48巻第1号、2号、3号（加藤敬弘教授退職記念号）、4号（山浦瑛子教授退職記念号）別冊「Intro－学びへのいざない」を年度内に刊行した。

高崎経済大学論集

第48巻 第1号

平成17年6月

目次

〔論文〕

明治中後期立山温泉の社会経済史的研究

—温泉関連史料及び新聞史料の検討を中心に— 富澤 一 弘
若 林 秀 行

環境会計におけるガイドライン・アプローチの限界と制度化議論の必要性

..... 水 口 剛

JASDAQ 市場における新規株式公開の長期パフォーマンス 阿 部 圭 司

人格概念の原初性と能力としての想起

—人格の同一性を問うということ— 福 田 敦 史

EC 独占禁止法における市場支配的地位の濫用行為 荒 木 雅 也

第48巻 第2号

平成17年9月

目次

〔論文〕

健康と福祉の社会経済学序説（上） 武 井 昭

On the Vocational Career Development and Labor Market

～ A Comparative Study of Employees' Self-development

Training in Japan and Taiwan (1) ～ 茂 木 一 之
王 國 霖

明治10年代群馬県勤業政策担当部署における部署改組の変遷、

および構成員の活動についての一考察 富 澤 一 弘
江 崎 哲 史

IT 革命と国際社会の行方（1） 福 井 千 鶴

経済思想と環境倫理 木 村 武 雄

EC条約82条と共同市場支配 荒 木 雅 也

〔研究ノート〕

Effects of Semantic Knowledge and

Schema-Familiarity on Discourse Retrieval ミッシェル・ステイール

〔講演抄録〕

環境倫理学と環境経済学	加 藤 尚 武
デモクラシーと平和	藤 原 帰 一

第48巻 第3号

平成18年2月

加藤敬弘教授退職記念号

目 次

加藤敬弘教授定年退職記念号発刊に寄せて	北 條 勇 作
加藤敬弘先生定年退職にあたって	木 暮 至
加藤敬弘教授定年退職記念号に寄せて	石 川 弘 道
加藤敬弘教授 略歴および研究業績	

〔論 文〕

フロイトの「本能論」

ーフロイトに於ける「心」と「本能」の探求ー	飯 岡 秀 夫
On the Vocational Career Development and Labor Market ー A Comparative Study of Employees' Self-development Training in Japan and Taiwan (2) ー	茂 木 一 之 霖 王 國

明治大正期に於ける富山県宇奈月温泉の研究 (1)

ー温泉関連史料及び新聞史料の検討を中心にー	富 澤 一 弘 若 林 秀 行
-----------------------------	--------------------

How do Japanese researchers cope with language difficulties
and succeed in scientific discourse in English?:

interviews with Japanese research article writers.	岡 村 晃 子
離島地域における運輸基盤整備の現状と交通社会資本のストック推計	

ー沖縄県島嶼地域における社会資本蓄積効果の考察ー	新 井 圭 太
環境政策と汚染財の比較優位との関係について	柳 瀬 明 彦

Foreign Direct Investment and North-South Environmental Problem	林 宰 司
---	-------

Dimensions, Stocks and Flows	中 路 敬
------------------------------------	-------

Request Strategies in 'Oral Communication A' textbooks	阿久津 由 佳
--	---------

IT 革命と国際社会の行方（２）	福井千鶴
Concepts on The Methodology of Teaching English	田村エレナ
比較文学の視点から見る「日本」	
―『日本書紀』と『日本書紀纂疏』を中心に―	二藤京
〔研究ノート〕	
主体性という理念とその限界	藤野寛
日本人大学生への日本語教育	
―日本語変革への構想―	高松正毅
〔講演抄録〕	
企業の社会的責任と産業・組織心理学	山田雄一

第48巻 第4号

平成18年3月

山浦瑛子教授退職記念号

目次

山浦瑛子教授定年退職記念号発刊に寄せて	北條勇作
山浦瑛子教授定年退職にあたって	木暮至
山浦瑛子教授定年退職記念号に寄せて	石川弘道
山浦瑛子教授 略歴および研究業績	
〔論文〕	
グローバル時代に勝ち抜く中小企業の会計戦略	山浦瑛子
京福電鉄における事故の組織人間工学的研究	岸田孝弥・久宗周二 大島登志彦・武井昭
HACCP システムを考慮した食品加工機械の	
安全・衛生設計に関する研究（上）	三浦達司
蚕種検査法施行期における地方庁の蚕種検査について	
―群馬県の事例を中心に―	富澤一弘 江崎哲史
環境会計フレームワークの再構築	水口剛

ジャスダック市場における新規公開企業の公開価格と初期収益率について

—幹事証券会社による公開価格と仮条件価格の予測能力— ……………阿 部 圭 司

単純ごみ箱モデル・プログラムのPerlへの移植 ……………藤 本 哲

沖縄県離島地域における交通社会資本生産性の推計

—地域基盤整備の政策評価に関するモデル分析— ……………新 井 圭 太

「菊花の約」における「信義」について

—中国白話小説「范巨卿鶏黍死生交」との関係による一考察— ……………中 田 妙 葉

負債・持分の区分の規準の諸相 ……………池 田 幸 典

わが国におけるCSR（企業の社会的責任）の現状と課題

—企業業績とCSRの関係を中心に— ……………眞 崎 昭 彦

我が国における企業結合会計の動向 ……………野 村 文 雄

銀行業におけるグローバルな経営統合と邦銀 ……………大 政 浩 一

知的財産会計の構築と制度化

—主として特許権に関する会計と企業価値の創造— ……………後 藤 小百合

〔研究ノート〕

投票システムと論理関数の関係に関する一考察 ……………山 本 喜 則

リアル・オプションに関する考察 ……………中 村 彰 良

〔講演抄録〕

最近の金融経済情勢— データを読み解く力 — ……………福 田 一 雄

4) 学術講演会は、下記のとおり推行した。

1. 平成17年 6 月21日(火)

加藤 尚武 (京都大学名誉教授)

「環境倫理学と環境経済学」

ー持続可能性をめぐる論争ー

2. 平成17年 6 月30日(木)

藤原 帰一 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)

「デモクラシーと平和」

3. 平成17年11月17日(木)

山田 雄一 (明治大学名誉教授・明治大学前学長)

「企業の社会的責任と産業・組織心理学」

4. 平成17年11月22日(火)

福田 一雄 (日本銀行金融機構局 参事役／講演当時 日本銀行前橋支店 支店長)

「最近の金融経済情勢について」

5) 研究会は下記のとおり推行した。

1. 平成17年 7 月13日(水)

① 今井 雅和 (本学経済学部助教授)

「ルール尊重社会はいかにして形成されるか? - Agent - based modelによる」

2. 平成17年12月 7 日(水)

① 中路 敬 (本学経済学部助教授)

「現代経済学の課題：経済学史の視点から」

② 中田 妙葉 (本学経済学部講師)

「『雨月物語』の創作と中国文化の受容 - 『菊花の約』を中心に - 」